

<報道発表資料>

(経済・大学同時)

令和7年9月5日

京都市産業観光局スタートアップ・産学連携推進室
(地独)京都市産業技術研究所 京都バイオ計測センター

京都バイオ計測センター研究交流発表会2025

AlphaFoldから始める、実験研究者のためのバイオインフォマティクス

京都バイオ計測センターでは、高度研究機器の利用促進及び普及活動として、また、研究を通じた利用者間の交流のために「京都バイオ計測センター研究交流発表会」を開催しています。

今年度は、実験研究に携わる研究者様が、バイオインフォマティクス(※1)を「理解し」「活用し」「連携する」ための基礎づくりとすることを目的に、今後、連続する講習会シリーズの第1回目として開催します。今回は、2024年ノーベル化学賞受賞で話題となったAlphaFold(※2)を入口に、ウェット研究とインフォマティクスの接点を明らかにしながら、「なぜ今インフォマティクスが重要なのか」を体感いただきます。

【開催概要】

● 日時

令和7年10月2日(木) 午後1時30分～午後5時(研究交流発表)
午後5時30分～午後7時(交流会)

● 会場

[研究交流発表] 三洋化成工業株式会社 桂研究所 1階ホール
(〒615-8245 京都市西京区御陵大原 1-40)

[交流会] 株式会社ファーマフーズ 3階
(〒615-8245 京都市西京区御陵大原 1-49/発表会場から徒歩1分)

● 対象者

企業技術者、大学(教員・学生)、公設研究機関研究者等

● プログラム（予定）

13:30	開会 企業紹介（株式会社ファーマフーズ、三洋化成工業株式会社）
14:05	講演 1 「AlphaFold と構造予測の革命 － ノーベル賞技術がもたらした構造生物学の変化と応用 － 三井情報株式会社 ICT コア第三技術本部 バイオヘルスケア技術部 畑 宏明 氏
14:45	講演 2 「ウェットラボ研究者のためのバイオインフォマティクス利用環境」 地方独立行政法人京都市産業技術研究所 プロジェクト推進室長 山本 佳宏
15:25	休憩
15:35	講演 3 「NGS を用いたデータ解析の最前線：データから生命現象を読む － 実験系から得られるデータとそのインフォマティクス解析 － 独立行政法人製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター バイオデジタル推進課 主査 仲里 猛留 氏
16:15	講演 4 「AlphaFold を用いたタンパク質間相互作用の in silico スクリーニング」 大阪大学 大学院生命機能研究科 助教 河口 真一 氏
17:00	閉会
17:30	交流会 ※軽食を提供（アルコール飲料含む）

● 参加費

研究交流発表：無料

交流会 ：会費 3, 0 0 0円／名

（現地徴収／研究交流発表と併せてお申込みください。）

● 定員

研究交流発表：6 0名

交流会 ：6 0名

※ 事前申込制。先着順での受付のため、定員に達し次第、締め切らせていただきます。

● 申込方法

研究交流発表・交流会ともに、以下二次元コード又はURLからお申し込みください。

URL：<https://tc-kyoto.or.jp/kist-bic/news/kenkyukouryuhappyou2025.html>



● 申込期間

令和 7 年 9 月 5 日（金）から令和 7 年 9 月 26 日（金）まで



● アクセス

【公共交通機関をご利用の場合】

- ・ 阪急京都線桂駅からバス（京阪京都交通・市バス）で約 12 分
- ・ JR 桂川駅からバス（ヤサカバス）で約 15 分
- ・ JR 京都駅からバス（京阪京都交通）で約 35 分

※バスの行先は桂坂中央。

最寄りのバス停「桂イノベーションパーク前」から徒歩 4 分

（最寄りのバス停に停車しない便もございますので、乗車の際はご注意ください）

【タクシーをご利用の場合】

- ・ 阪急京都線桂駅から約 10 分
- ・ JR 桂川駅から約 15 分
- ・ JR 京都駅から約 30 分

【お車でお越しの場合】

・ 会場には駐車場がございますが、ご利用いただける台数には限りがあるため、可能な限り公共交通機関をご利用ください。お車でお越しの場合は、事前に事務局（京都バイオ計測センター）までご連絡ください。



● 主催等

主催：京都市、(地独) 京都市産業技術研究所

共催：(独) 日本貿易振興機構 (JETRO:予定)、バイオコミュニティ関西

協力：三洋化成工業(株)、京都バイオ計測センターユーザーネットワーク、Biocock 分析・計測分科会

<※1 バイオインフォマティクス>

バイオインフォマティクスとは、生命の情報をコンピューターで解析する研究分野です。次世代シーケンサーから得られる大量のゲノム情報を迅速に解析し、タンパク質構造データを用いたシミュレーションにより、人の計算能力やウェットの研究では解明できなかった生命現象を明らかにすることができます。バイオインフォマティクスの活用は、医療や創薬分野に大きな発展をもたらすことが期待されています。

<※2 AlphaFold>

AlphaFold とは、DeepMind 社が開発したタンパク質の立体構造を予測する AI プログラムで、2021 年 7 月の論文発表以降、様々な論文でのタンパク質の立体構造予測に用いられ、生命科学全般の研究者に多くの影響を与えています。

<問合せ先>

京都バイオ計測センター

電話：075-326-6101 / E-mail：kist-bic@tc-kyoto.or.jp